

1 学校教育目標

豊かな心・感性・知性・体力を身に付け、世界に羽ばたく青井の子どもの育成

○よく考える子 ○思いやりのある子 ○たくましい子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> ・確かな学力の定着を図る学校 ・様々な体験を通して、豊かな心とあきらめないでやり通す強い心と、健康な体を育てる学校 ・保・幼・小・中の連携をより一層推進することで教育活動の充実を図る学校 ・地域社会に開かれた学校
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ・規則正しい生活習慣や家庭学習の習慣を身につけ、確かな学力を身に付けた児童 ・失敗を恐れず、何事にも積極的に挑戦し、自ら進んで心と体を鍛えようとする児童 ・社会のルールを理解し善悪の判断力・規範意識を身に付け、自信をもって中学校を目指す児童 ・相手を思いやることの出来る豊かな心をもった児童
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> ・服務に厳正であり、人権感覚を常にもち、自らの力を伸ばし続けられる教師 ・児童・教職員・保護者・地域の方々とコミュニケーションが良好に図ることができ、相手の思いや考えを理解し、相手の立場に立って考えることができる教師 ・主体的かつ的確な判断ができ、限られた時間を活用して職務の効率化を図り、組織的に課題解決に取り組むことができる教師 ・教師としての基礎基本（東京都教育委員会が示す「学習指導力」「生活指導力・進路指導力」「外部との連携・折衝力」「学校運営力・組織貢献力」）、人として社会人としてのマナーを身につけた教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

(1) 学校の現状

①学校について

「基礎基本の定着」「若手教員の育成」「自尊感情・自己肯定感の育成」「健康教育の推進」を中心に教育活動を展開した。地域・家庭との協力を得て教育活動の成果を上げていると考える。

②児童について

明るく素直であり、心優しい児童が多い。基本的な生活習慣、学習習慣・家庭学習の定着に課題がある児童がおり、個に応じた丁寧な指導が求められる。課外活動の金管バンド部・サッカー部・ミニバスケットボール部の活動にも積極的に取り組んでいる。

③教師について

教職員は子どもの教育に熱心で、職務に取り組んでいる。経験が少ない教員が多いため、教科指導専門員の指導を受け、経験のある教師が若い教師を育て、教育活動の工夫・授業改善に努めている。

④保護者・地域について

地域の学校という意識が高く、学校を愛し支援してくださる方が多い。保護者・地域の方々は、学校教育に理解を示し、とても協力的であり、毎日、児童の登校時間、下校時間に横断歩道に立ってくださったり、パトロールをしてくださったりしている。

(2) 前年度の成果と課題

- ①「課題解決型授業展開の工夫」をテーマにして授業力の向上に取り組んだ。学力の向上を図るため、児童の学習内容の定着状況を定期的に診断し、指導に生かしていく。
- ②基礎基本の定着を目指し、放課後の補習、3月に実施したプレテストの結果分析を行い、学年ごとに具体的な対策を立て、今年度に次年度の学年に引き継いだ。特に、放課後補習教室「あおいゆうやけ教室」や「そだち指導」により、個に応じた指導を充実させている。今後も継続して取り組む。
- ③昨年度も、例年実施しているあいさつ運動、地域貢献の取組（全児童による年2回の地域清掃）は、コロナ禍で中止となった。今年度は、状況を鑑みて、可能な範囲で実施し、地域との交流を進めていく。
- ④行事の充実、部活動（金管バンド部・サッカー部・ミニバスケット部）の指導により、感動体験や達成感を感じる機会を増やし、自尊感情を高める活動を工夫した。継続して取り組む。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R2	R3	R4	R5	R6
1	学力向上アクションプラン	◎	◎	○	◎	
2	いのちを大切にす教育の推進	◎	◎	◎	◎	
3	健やかな体の育成	○	○	○	○	

重点的な取組事項－1	学力向上アクションプラン
-------------------	--------------

A 今年度の成果目標	達成基準 (目標通過率)	実施結果 (通過率結果)	コメント・課題	達成度 ◎○△●
基礎・基本の定着	85%	3月実施の確認テストの結果平均通過率86.1%であった。	引き続き基礎学力の定着に重点を置くひつようがある。	○

B 目標実現に向けた取組み

新・継	アクションプラン	対象教科 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	朝学習	全児童 国語 算数	毎週 火、木 始業前 15分	【指導者体制】 担任・専科 【取組みのねらい・目的】 学習内容の復習・確認を行う。 【使用教材】 プリント教材、AIドリル	定着度確認テスト (7月、12月、 3月実施)	3月に実施する定着度確認テストで目標値を通過する児童85%を目指す。	3月に実施した定着度確認テストでは、目標値を通過した児童は、国語85.5%、算数86.1%、全体として86.1%であった。	全体としては、目標値を達成しているが、クラスによって通過率に差が出てしまったので、定着を図る取組みを工夫する必要がある。	○

2 継続	放課後補習 教室	全学年 (学力調 査の結果 から抽出 した児 童)	毎週 木 放課後 45分	<p>【指導者体制】 全教員・学習支援員・</p> <p>【取り組みのねらい・目的】 勉強ができる喜びを味わわせるために実施。つまずきをさかのぼり、基礎となる問題や演習問題を中心に少人数指導。苦手なところを克服させる。</p> <p>【使用教材】 プリント教材（次へのステップ、東京ベーシックドリル等）AIドリル</p>	定着度確認テ スト (7月、12月、 3月実施)	3月に実施する 定着度確認テ ストで目標値を 通過する対象児童 70%を目指す。	3月に実施した定着 度確認テストでは、 対象児童の通過率は 70%を下回った。	計画通り実施する ことができている。今 までの取り組みに、 AIドリルの利用な どの工夫によって、 学習意欲や学習習慣 の定着を目指した指 導を引き続き行う必 要がある。	△
3 継続	サマースク ール	全学年 (学力調 査の結果 から抽出 した児 童)	夏休み 期間中 の10日 各日60 分	<p>【指導者体制】 全教員</p> <p>【取り組みのねらい・目的】 教職員を全学年に分担し、 少人数指導のもと進める。 過去学年にさかのぼったつ まずきの克服や、現学年の 授業内容で理解が完全でな い内容の補充問題を行う。</p> <p>【使用教材】 プリント教材（次へのステ ップ、東京ベーシックドリ ル等）</p>	着度確認テ スト (7月、12月、 3月実施)	3月に実施する 定着度確認テ ストで目標値を 通過する対象児童 70%を目指す。	3月に実施した定着 度確認テストでは、 対象児童の通過率は 70%を下回った。	コロナ感染症によっ て、実施日が、2日 間減って8日間の実 施となったが、どの 学年も、参加率は、 80%を超えることが できた。全教員が分 担して行うことによ って、学校内での教 員の児童の学習状況 を把握できる良い機 会になった。	△
4 継続	家庭学習の 手引き発行	全学年 全員	年1回 4月	<p>【取り組みのねらい・目的】 「開かれた学校づくり協議 会」と協力し、年間を通し た家庭学習の啓発をねらい とした家庭学習の手引きを 4月に発行する。</p>	児童アンケ ー「学年の実 態に応じた学 習時間」	児童アンケ ー「家庭学習の 目標時間達成」 を前年度以上 とする。	学年に応じた家庭学 習時間に達成できた 児童は87%であっ た。(昨年度より1% 減)	家庭学習の大切さを 保護者会等で引き続 き伝えていき、学年 に応じた家庭学習時 間に達成できる児童 を90%にしていく。	○

5 継続	組織的な 組織による 教師力の 向上	全教員	通年	<p>【取り組みのねらい・目的】</p> <p>①小中連携をさらに推進し 中学校教員の専門性や指 導技術を小学校にも取り 入れ、小学校教員の指導力 の向上を図る。</p> <p>②若手教員対象に教科指導 専門員による指導を受け、 足立スタンダードに基づ いた課題解決型授業につ いて学ぶ。</p>	児童アンケ ート（12月）	児童アンケ ート「授業がわか りやすい」の項 目で肯定的評 価90%を目指 す。	児童アンケ ートで 「授業がわかりや すい」の項目で肯定的 評価は93.3%であ った。	目標値を達成してい るが、引き続き、教 員の授業力向上を図 っていく。	○
6 継続	放課後自 習室「学 viva（ま なびば）」	第5・6学 年児童	通年 火、金	<p>【取り組みのねらい・目的】</p> <p>家庭学習など、学習習慣が 身に付いていない児童に 対して、自主的に学習に取 り組み時間と空間を提供 する。</p>	学年に応じた 学習時間	児童アンケ ート「家庭学習の 目標時間達成」 を前年度以上 とする。	児童アンケ ート「家 庭学習の目標時間達 成」は、87%であ った。（昨年度より1% 減）	計画通り実施するこ とができた。保護者 にも、引き続き家庭 学習の大切さを伝 え、家庭との協力体 制を継続していく。	○
7 継続	学力調査 後と確認 テスト後 の学年面 談	全教員	7月 12月 3月	<p>【取り組みのねらい・目的】</p> <p>確認テスト後に、学年ごと に調査結果の分析・検討を 行い、具体的な対策を検討 する。</p>	定着度確認テ スト (7月、12月、 3月実施)	3月に実施する 定着度確認テス トで目標値を通 過する児童85% を目指す。	3月に実施した定着 度確認テストでは、 目標値を通過した児 童は、国語85.5%、 算数86.1%、全体と して86.1%であ った。	各学年と面談をし、 国語と算数のそれぞ れの児童のつまずき を分析し、具体的な 手立てを考えた。年3 回の定着度確認テス トで、経過分析を行 い、手立てを改善さ せた。現学年での分 析・結果を次年度の 学年に引き継いでい く。	○

8 継続	ICT を活用した授業の取組	全教員	通年	【取り組みのねらい・目的】 AI ドリルを効果的に活用し、学力向上を図る。 教師が ICT を活用し授業改善を行い、授業力向上をめざす。	教員一人一人が使用する目標を決める。	教員が決めた目標 100%をめざす。	各教員が設定した目標に対して、90%以上を達成した。	どの教員もタブレットを授業の中に取り入れ授業改善を行っているが、教員のスキルに差があるため、校内での活用研修を進めていく必要がある。	△
9 継続	区調査の分析・活用	1年～6年担任	年3回	【取り組みのねらい・目的】 確認テスト後に学年ごとに調査結果の分析・検討を行い、具体的な対策を検討する。 区の算数の学力調査の結果、苦手な単元をあらわし、算数の年間指導計画を見直す。時数を1時間から2時間多く取り、学力の向上を図る。	定着度確認テスト (7月、12月、3月実施)	3月に実施する定着度確認テストで目標値を通過する児童85%を目指す。	3月に実施した定着度確認テストでは、目標値を通過した児童は、国語 85.5%、算数 86.1%、全体として 86.1%であった。	全体としては、目標値を達成しているが、クラスによって通過率に差が出てしまったので、定着を図る取り組みを工夫する必要がある。	△

重点的な取組事項－2		いのちを大切にする教育の推進			
A	今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
	いのちを大切にする教育の推進	児童アンケートで、「友達を大切にしている」の項目で児童の割合 98%	児童アンケートの結果、肯定的評価が 98%であった。	継続して、いのちを大切にする教育を推進していく。	◎

B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
自尊感情・自己有用感の育成	①保護者アンケートで「楽しく学校生活を送っている」の項目肯定的評価が90%以上 ②児童アンケートで「学校に行くのは楽しいか」と回答する児童の割合、90%以上	①毎月25日を「青井小いのちの日」として、児童朝会の校長講話とすべての学級の道徳の時間での「生命尊重」の授業を実施する。 ②金管バンド部・サッカー部・ミニバスケットボール部の活動を充実させ、感動体験や達成感を味わう機会を設ける。	児童アンケートで、「友達を大切にしている」と肯定的に回答した児童の割合は、98%だった。 また、「学校に行くのは楽しい。」と肯定的に回答した児童の割合は、88.4%だった。	① 道徳教育、人権教育の推進により、友達への思いやりや生命を尊重する態度を引き続き指導していく。 ② 部活動は感染対策を考慮に入れ、教員の働き方改革とのバランスを考え改善しながら活動していく。	◎
読書活動の充実	①児童アンケートによる「読書量の増えた児童」の割合95%以上 ②お話し会、読み聞かせ等の機会を年間各学年2回以上 ③読書の時間の確保	①朝読書等の読書タイム(15分)を週2回、年間70回以上実施する。 ②読書ボランティア・図書館支援員等と連携し、読み聞かせ、ブックトークを実施する。(年2回)音楽大学と連携し「お話コンチェルト」を年1回実施する。 ③図書室を開放する時間を増やし、読書機会を多く設定する。	朝読書等の読書タイム(15分)を読書強化週間には週2回実施することができたが、年間を通しては難しかった。 本の貸し出し状況は、昨年度より上回った。 「読書量の増えた児童」の割合は、66.6%で昨年度より0.2ポイント増加した。 図書ボランティアによる「大話し会」は、3年ぶりに実施できた。	引き続き、図書館支援員の協力を得ながら、学校図書館計画に沿って読書活動を推進していく。 図書ボランティアや大学サークルとの連携を強化しながら読書活動を充実させていく。	○
特別支援教育の推進	①特別支援学級との交流及び協同学習を年間通して実施する。 ②地域の障がい者施設との交流を年間1回以上実施する。 ③全学級において、障がい者理解教育のための授業を年1回以上実施	①学校行事、縦割り班活動だけでなく、教科・領域においても交流及び協同学習を実施する。 ②地域の障がい者施設との交流を低学年で実施する。障がい者理解と共生社会の担い手としての意識を芽生えさせる。 ③パラリンピック競技アスリートによる講演会を年1回以上実施する。	① 特別支援学級との交流及び協同学習を年間を通して実施することができた。 ② 今年度もコロナの影響で、障がい者施設との交流はできなかった。 ③ 全学級において、障がい者理解のための授業を年1回以上実施することができた。また、学校保健委員会で児童理解のための講演会を開くことができた。	引き続き、児童の障がい者理解教育をさらに進め、互いを尊重し認め合う態度を養っていく。	○

重点的な取組事項－3		健やかな体の育成			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
進んで健康な暮らしをする態度の育成		児童アンケートで健康への関心が高まったと回答する児童が90%以上	児童アンケートで健康への関心が高まったと肯定的に回答する児童の割合は、80.5%であった。	健康な生活という点で、児童の関心が低く、生活習慣等の指導が必要である。また、保護者会等で、保護者に伝え、家庭との連携を図る必要がある。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
進んで健康な暮らしをする態度の育成	児童アンケートで健康への関心が高まったと回答する児童が90%以上	進んで健康な暮らしをする態度の育成	児童アンケートで健康への関心が高まったと肯定的に回答した児童の割合は、80.5%であった。また、「1日にどれくらい外遊びや運動をしていますか。」では、1時間以上と回答した児童の割合は、57.1%でした。	健康な生活を送ろうという点で、児童の関心が低いことが分かった。生活習慣等の指導や家庭での体力向上の取り組みの協力を伝えていく必要がある。	△
健康教育の推進	①う歯の受診率90%以上 ②生活実態調査で、早寝早起きの習慣がついた児童80%以上 ③2月の生活実態調査で、朝食の摂取率を100%	①歯科検診を年間2回実施する。個人面談の際に未治療者に治療勧告をする。 ②養護教諭による、保健指導を年間15回実施する。 ③生活実態調査を年3回実施し、規則正しい生活を実践するための関心と意欲を高める。	①う歯の治療率は73.4%であった。 ②生活実態調査で、早寝早起きの習慣がついた児童は、78%であった。昨年度と同じ割合。 ③生活実態調査で、朝食の摂取率は、98%で、昨年より、1ポイント下がった。	引き続き、健康教育については、指導を行っていく。う歯治療率は、次年度以降、受診率をもって指導の経過を観察していく。	○
食育の推進	①食に関する指導を年間15回以上実施する。 ②残菜率を一か月平均2%以下にする。	①誕生日給食の際に、栄養指導を行う。(年12回)食に関する指導を3回以上実施する。 ②「もりもりウィーク」等で、完食した学級を表彰し、児童の食への関心と意欲を高める。	①食に関する指導を年間15回以上実施することができた。(給食放送も含) ②「もりもりウィーク」期間中の完食率は100%であった。年間を通して、残菜率は1.5%(昨年度より、0.48ポイント減少)になり、目標を達成することができた。	引き続き、食の関心をも高めるための指導の工夫を行っていく。	◎

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

重点的な取組事項－1 学力の向上

・12月の確認テストの結果、国語全校通過率85.5%、算数全校通過率86.6%、平均通過率86.1%であった。各学年と面談をし、国語と算数の苦手なところを分析し、具体的な手立てを考えた。国語は全体的な傾向としてはじめて読む文章について、苦手意識が強く、書いてある内容をとらえ理解することが課題としてあげられる。手立てとして、教科書以外の文章にふれる読書活動を通して、読む習慣をつけ、語彙力、読解力をつける。算数は、データの活用が低く、表やグラフにまとめる学習を丁寧に行い、日常生活から、表やグラフに親しむ機会を増やしていく。

家庭学習の目標時間の達成率は、12月の時点で87.0%であった。引き続き指導を継続する。

重点的な取組事項－2 豊かな心の育成

・校長による「いのちの講話」を年間10回、担任による生命尊重の授業を年間11回実施した。児童アンケートで「友達を大切にしている」と回答している児童は98.0%であった。児童の読書活動の充実のため、一人あたりの本の貸出し数を増やす等の取組により、前年度に比べ、読書量が同等もしくは、増えた児童は98.3%である。特別支援教育の充実のため、特別支援学級との交流学習を年間通して行った。また、校内行事の中で各学年と交流活動を行うことができた。今後も児童の実態に応じて行っていく。

重点的な取組事項－3 健やかな体の育成

・持久走大会を3年ぶりに実施することができた。練習も3週間、中休みの時間に行うことができた。児童は、自己ベストを更新しようと意欲的に取り組むことができた。長縄チャレンジは9月から実施し、5クラスが区の記録を達成することができた。体育科の教員の実技研修を年3回、年間を通して授業を参観する体制を取ったことにより、授業改善につながった。学校保健委員会では、開かれた学校づくり協議会の家庭教育部会と連携し、大学教授を講師として迎え、児童理解のための講演会を行うことができた。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

今年度、学校創立50周年を迎え、地域の方々、PTAの皆様とともに、周年記念事業を進めることができた。記念誌の作成、航空写真の撮影などをはじめ、12月には、足立区長をはじめ、地域の方々、歴代の校長先生や学校職員、卒業生などを招いて、創立50周年記念式典・祝賀会を開催することができた。児童も、自分たちの学校の歴史を振り返ったり、地域の様子についてたくさん学んだりすることができた。地域の方々には、日ごろから子どもたちを見守っていただき、子どもたちは落ち着いて学校生活を送ることができた。まだ、コロナ感染予防のある中ではあるが、「運動会」「展覧会」などの行事も開催することができ、たくさんの方に、参観していただき、あたたかいお言葉をいただくことができた。子供たち、教職員にとって大きな励みとなり、次への意欲につながる事ができた。今後も、様々な場面で、子どもたちの学校での様子を、保護者・地域の皆様に参観していただき、子どもたちを励ましていただきたいと思います。

令和5年度も、授業内容の工夫・改善を図り、より学校の教育活動を充実させ、一層充実した教育活動を行っていく所存である。

(3) その他（学校教育活動全般について）

今年度も、新型コロナウイルス感染拡大防止に努めながら、保護者・地域の方々のご支援、ご協力のもと、教職員が日常の教育活動等や学校行事を工夫しながら、子供の指導に積極的に取り組んできた。

※保護者のアンケート（1月実施）の結果は、次の通りである。なお、（ ）内は、肯定的意見の割合である。

「教育目標、方針、様子をわかりやすく伝えている。（89.2%）」

「学校からの文書や連絡等はわかりやすく、内容は適切である。（88.2%）」

「部活動等、特色ある教育活動を行っている。（87.3%）」

「児童の学校生活がよくわかるように工夫している。（84.8%）」

「学習方法を工夫してどの児童にも基礎学力が定着するようにしている。（89.2%）」

「児童の体力向上、健康の増進のための取り組みを行っている。（88.8%）」

「命を大切にすることや思いやりの心をもつことの指導に努めている。（84.8%）」

「事故防止に努め、子どもの安全を守るための指導や取り組みを行っている。(85.8%)」

「教員は、児童の努力を認めたり、励ましたりして温かく接している。(87.8%)」

「教員は、良くない事はきちんと指導し、授業、生活のルールを守らせている。(87.8%)」

「児童は楽しそうに学校に通っている。(89.7%)」

「児童は家庭学習の習慣が身についている。(77.7%)」

「児童は地域や家庭で元気に挨拶をしている。(78.9%)」

「児童は『早寝・早起き・朝ごはん』等の生活習慣が身についている。(77.4%)」

わからないという回答が昨年度と比べると大幅に減り、約3%くらいの割合になったのは、コロナの感染防止を行ったうえで、50周年の記念事業や学校公開をはじめ、様々な行事に保護者や地域の方に来校していただき、学校の様子を伝えることができたためだと思う。アンケートの結果、どの項目も85%以上の肯定的評価をいただくことができた。今後も保護者、地域との密接な連携のもと、子供たちを指導していくことの重要性を実感している。教職員の力を結集し、「子どもが楽しく通う学校」を目指して教育内容の充実・改善に努め、「青井Brand（あいさつ・おもいやり・一生懸命）」を身に付けた子供たちの育成を図る。

また、本校は地域、開かれた学校づくり協議会の協力のもと、今年度も花壇、整備を実施することができた。草花を植え育てることは、生命に対する畏敬の念を養ったりするなど、教育的価値が高い。観察や活動・体験を通して、子どもの心を育てていく場として、環境教育の一環として、引き続き本校の特色としていく。

金管バンド部の50周年記念行事への参加、サッカー部・バスケットボール部の公式戦への参加などにも、多くの保護者や地域の方々の参加と協力を得られたので、スムーズに運営することができた。課外活動は、児童の健全な心身の成長を図る上で、本校にとっては重要な教育活動として位置づいている。挨拶や礼儀の指導の徹底により生活指導面でも成果が顕著に表れているばかりでなく、朝練などによって部員の生活サイクルが整い、遅刻者が少ない等の成果にもつながっている。来年度も、練習方法を工夫・改善しながら部活動の様子や成果等の広報に努め、これらの課外活動も充実させ学校全体の活性化と児童の自尊感情・自己肯定感の育成に努めていく。